

岩手

大槌の夏

7月23日から始まった夏休み。「大槌子どもセンター」には、毎日30人以上の子どもたちがやってきます。朝10時の開館から仕事を終えた保護者のお迎えが来る夕方6時まで、お弁当持参の子どもたちも結構多く宿題、卓球や畑の作業にも参加しています。夏休み中はセンターでは毎日たくさんのプログラムを実施しています。地元スタッフが切り出した長い竹を使っての「流しそうめん」、のこぎりや金槌を初めて使った貯金箱作り、積木「カプラ」を高く積み上げる競争、バスで内陸の遠野ふるさと村や釜石のプールへの遠足など、子どもたちも大いに楽しんでいます。

東北の夏休みは早く終わり、8月20日過ぎからは新学期が始まります。9月からは、子どもセンターが町の管理下に入ることになりました。子どもが笑える居場所として、また大槌町の子育てをサポートするため、当会では継続して事業運営を支えます。

家族が帰省するお盆を迎えて、津波で流出した写真のデータベースを公開しました。当会が町に寄贈したパソコンには約30万枚の写真のデータが収められていて、地域、行事や名前などで検索して、自分の写真を探すことができます。町の商業施

設の2階に最近オープンした「復興情報プラザ」の前に、パソコンを並べて試運転がスタート。お盆休み中にたくさんの方が探しに来られることでしょう。



震災から500日経ち、毎月100人以上の人たちが町から転出していることを聞きます。生計を立てるすべを失ったままで、家の再建もおぼつかず、人口は1万人を切ったとか。高さ13メートルあまりの防波堤を建てるかどうかはまだ最終的には決まっておらず、仮設住宅に代わる公営アパートなど復興住宅を建てる土地もありません。長期的な展望が見えない被災地では、ボランティアの数も減る一方で、町も住民も元気をなくしていくのではととても心配です。

